

平成 29 年度 日本大学山形高等学校 自己評価票

【本校の目指す学校像】

日本および国際社会の平和と人類の福祉の向上に寄与し、我が国と郷土を愛するとともに、「自主創造」の気風を養い、伝統と文化を尊重する豊かな情操と信頼の心に満ちた人間として調和のとれた生徒を育成する。日本大学の付属校として、高大一貫教育に努め、充実した全人教育を行う学校にする。

【本校の特長及び課題】

「自ら学ぶ心」を育成しつつ、個々人の進路希望を実現させるべくコース別学習指導の体制の下、学力向上を目指している。

適切な生徒指導の根幹をなす基本的な生活習慣の確立、能動的な学習習慣の確立に努めている。また、地方の私立高校として特別教育活動の振興に努め、学園全体として文武両道を校是とし、感動と一体感を涵養している。

課題は、さらなる特徴の充実を図るとともに、少子化に伴う生徒募集の在り方、校舎の耐震化と財政基盤の適正化にある。

平成 29 年度の取組結果

【概況】

平成 29 年度の取組目標に対する結果・進捗状況及び達成状況は、各校務分掌でおおむね結果が得られた状況であるが、あまり達成成果が得られなかった目標に対しては、継続事項として取り組んでいきたい。特に、教師の授業力向上のため、授業見学(他教科も可)を年数回実施すること、また、校内の環境整備面については、全般的に課題がこなせていない現状が続いており、今後も全教職員が協力して改善・向上に努める。また、教員全員が担当する中学校に何度も足を運び生徒募集に努めていく。今後とも全教職員が協力して継続的に課題改善に当たっていきたい。

教育活動

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
生徒による授業評価結果に基づく授業改善	授業見学会、研究・公開授業を通して、授業等の相互点検を図りながら、教育力の向上を図る。特に授業進度と授業始業については継続事項である。	B
基礎学力の向上	基礎学力到達度テストに向けて、授業・家庭学習・定期試験・模擬試験等へのデータに基づいた対応を更に充実させ、各部署との連携を図り生徒の学力向上を目指す。	B
教員の授業力向上	授業見学会、研究・公開授業を通して、授業力の向上を図り、確かな知識・学力の定着を目指す。また、外部の研修会に積極的に参加し、教員相互研修の一助にする。	B

学校生活への配慮

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
いじめ防止のための取組	<ul style="list-style-type: none"> ・本校のいじめ防止対策基本方針や危機管理マニュアルに基づき、初期対応の重要性を認識し、組織（チーム）としての対応に努めている。 ・保健室に来室した生徒が、いじめや人間関係のトラブルなどを訴えた場合には、早期にいじめ防止対策委員や学年主任、担任などと情報を共有し、共通理解の下で問題解決に当たっている。 ・生徒と担任との二者面談等を行い、生徒理解の深化を図っている。 ・6月と10月にいじめ発見調査アンケートを実施し、いじめの防止・早期の発見と対応に努めている。 	B

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 6月に「いじめ防止対策推進法といじめへの対応 ～早期発見・早期対応を中心に～」をテーマに校内教職員研修会を実施した。また、校外での各種研修会に参加し、指導力の向上に努めている。 ・ 生徒会によるいじめ防止のためのスローガンを作成し、いじめ防止に関する生徒の主体的な意識づけを高めている。 ・ ネット被害防止スクールガード事業としてのネットパトロールを行い、いじめ防止やトラブル防止の指導に取り組んでいる。 	
基本的な生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4月の新入生オリエンテーション期間に、生活指導部が中心になって高校生活全般についての全体指導と、クラスごとの指導では共通項目に基づく統一した指導を実施した。 ・ 各学期の始業式後に、学年ごとに頭髪・服装検査を実施した。 (2学年は修学旅行前、3学年は卒業式前にも実施) ・ 外部講師による生活指導講話を年4回(「自転車交通安全教室」「薬物乱用防止・SNSのトラブルについて」「十代の性について」「タバコの害について」)実施した。 ・ 登校時間帯(4月～11月末)に教員・学級委員・週番委員が一体となったあいさつ運動や駐輪指導を実施した。 	B
交通安全 非行の防止	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4月に生活指導講話「自転車交通安全教室」を実施(1学年)した。また、各クラスや学年集会などでの指導を通して事故防止や交通ルールの遵守などの意識づけの向上を図った。 ・ 登下校時の通学路巡回指導を実施している。 ・ 問題行動の未然防止のための指導や、心配される事柄に対する生徒への注意喚起等に関しては、担任によるクラスでの指導と全体での指導(全校集会や学年集会など)を適宜実施している。 ・ 普段からの指導とともに、警察署や外部の専門家による生活指導講話を実施して事件、事故、トラブルの防止につなげた。 	B

課外活動

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
課外活動の充実	基礎学力到達度テストの実施に伴い学力向上が急務であるが、生徒会活動等、日々の生活を活気あるものにする。	B
ボランティア活動の充実	校外のボランティア活動への参加を積極的に呼びかけるとともに、校内でできるボランティア活動を確立させる。	B
南東北総体への協力	平成29年度の南東北総体に向け、本校の活動とバランスを取りながら協力する。	A
部活動の活性化と顧問の負担軽減	部活動の活性化に努めつつ、部活動顧問が過負担にならないよう模索する。	B

進路指導

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
日本大学への進学者数増加に向けた取組	<ul style="list-style-type: none"> ①夏期休暇中の全員参加の講習(1～2年、ただし3年は進学希望者全員) ②年末年始休暇中の全員参加の講習(1・2年) ③春期休暇中の全員参加の講習(2・3年) ④医学部附属看護専門学校説明会(2・3年の生徒対象：看護学校教員が説明) 	A

	<p>⑤理工学部説明会(2・3年の生徒対象：理工学部教員が説明)</p> <p>⑥芸術学部説明会(3年の生徒対象：芸術学部教員が説明)</p> <p>⑦国際関係学部説明会(3年の担任・副担任対象：国際関係学部教員が説明)</p> <p>⑧生物資源科学部説明会(3年の担任・副担任対象：生物資源科学部教員が説明)</p> <p>⑨工学部オープンキャンパス無料バスツアー(2・3年の生徒・保護者対象)引率</p> <p>⑩日本大学各学部のオープンキャンパスへの参加を指導(全学年)</p> <p>⑪1年次進路説明会(保護者対象)にて、日本大学について説明(本校教員が説明)</p> <p>⑫2年次進路説明会(生徒・保護者対象)にて、日本大学向けの分科会を開催(本校教員が説明)</p> <p>⑬3年次日本大学付属推薦説明会(生徒対象：本校教員が説明)</p> <p>⑭3年次日本大学付属推薦説明会(保護者対象：本校教員が説明)</p> <p>⑮生産工学部高大連携教育(3年)</p> <p>過去2年間の新付属推薦制度の結果を踏まえ、日本大学の学部学科ごとに基礎学力選抜方式における目標点をまとめたプリントを作成し、教員・生徒・保護者に提示した。新付属推薦3年目ということで、これまでのデータを基に進路指導ができた。その結果、日本大学志望者の割合が増加し、日本大学への進学率も増加した。昨年度から一般入試N方式1期の手続き等の変更により、一般入試による日本大学への受験者数が大幅に増加している。</p> <p>3年次4月、9月の基礎学力到達度テスト直前に、放課後、数学の講習を希望者対象に行った。その結果、特に3年理系の数学の成績が良好であった。</p>	
<p>きめ細かい進路指導の実践</p>	<p>担任と進路指導部が連携を密にし、生徒の実態に即した進路指導を行った。クラス担任が詳しいことまで分からない分野については、進路指導部でバックアップするような体制が確立している。日本大学への進学率が増加している。</p> <p>付属推薦入試の最新情報を速やかに生徒や保護者に伝え、日本大学進学希望者の進路目標達成を援助した。進路指導部と担任が連携を密にして生徒の実態に即した、きめ細かい進路指導を行った。スタディサポート(ベネッセ)により、生徒の現状分析から面談する優先順位が分かるので、それを基に面談を行った。教員向けのスタディサポート分析活用会を実施し、家庭学習の充実に向けた指導のポイントなどを担任が研修を積み、実践している。</p>	<p>A</p>

保健衛生

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
<p>情報提供・情報共有の迅速化と早期対応の実践</p>	<p>季節ごとの健康課題に関する情報は、月ごとに新聞記事等を掲示したり来室者へ個人的に健康教育や指導をすることは継続的に行っていたが、各教室や各教員への情報提供までは手が回らなかった。</p> <p>一方、不適応生徒への対応に関しては、早い段階で該当生徒に関係し得る教職員間で情報交換・共有し、必要があれば早い段階で欠時数一覧を学年・担任に提供して本人への指導や面談の際の資料として利用してもらおう等、現状報告が後手後手にならないよう意識して取り組んだ。例年より積極的に行えたと考える。</p>	<p>C</p>
<p>校内環境の整備・点検・維持</p>	<p>校内の環境整備面については、全般的に課題がこなせていない現状が続いており、今の体制で行っていくことには限界を感じている。清掃時間の確保や、部活動への協力依頼等、体制の見直しを学校全体で考えていく必要性を強く感じる。</p>	<p>C</p>

図書

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
広報活動の充実	担任への利用状況の報告をより詳しくしてみた（ベストリーダー賞の成績の反映など）。「図書館だより」を、前年度より発行回数を増やし、年5回発行した。	B
知的興味へ誘う環境作り	館内通路の「特集本コーナー」のテーマを季節的なものだけでなく知的興味を誘うものを増やし工夫した。山形県が推し進めている企画とコラボレーションしたり、ノーベル文学賞作品を展示するなど、生徒も興味を持って手に取っていた。	B

広報

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
入試制度の変更により志願者を増やす。	諸事情により、新しい入試制度を取り入れることができなかった。しかし、中学校教員説明会や学校説明会、また一斉訪問等で推薦の基準や合格目安点などを丁寧に説明してきたことが推薦・専願者の受験者増につながった。	C
ホームページの改定	ホームページが改定され、トップページやバナーの並びを変更し、より見やすく情報を得やすいホームページになった。学校自己点検のホームページや学校案内についての評価が高い数字になっている。	A

管理運営

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
経常費補助金収入の改善及び人件費の適正化	補助金収入の改善は、1学級の生徒数を40人以下とすることで、経常費補助金の減額要因を最小限に止める。また人件費の適正化を図るため、生徒数に対する適正なクラス数及び持ちコマ数を見直した適正な教員数を配置する。	A
経常費補助金の収入確保並びに併願者入学申込金の見直し	平成29年度入学試験より併願者の入学申込金を10万円から8万円と見直し、補助金算定上の控除率を下げることにより、補助金収入の増収を図る。また受験環境の整備を併せて行い受験者増を図る。	A

※【A達成できた、B大体達成できた、Cあまり達成できなかった、D達成できなかった】

中長期的目標の取組結果

教育活動

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
基礎学力の向上	基礎学力到達度テストに向けて、授業・家庭学習・定期試験・模擬試験等への対応を充実させ、各部署との連携を図り、生徒の学力向上をデータに基づいて目指す。 継続事項	B
教師の授業力向上	授業見学会、研究・公開授業を通して、授業力の向上を図り、確かな知識・学力の定着を目指す。また、外部の研修会に積極的に参加し、さらなる教師相互研修の一助とする。	B

管理運営

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
財政基盤の確立	ゼロベース予算、冗費の節減、教職員の学校経営に対する個々の意識改革の徹底により、経費節減等支出削減対策につなぎ、財政状況が改善するよう継続して取り組む。	A

※【A達成できた、B大体達成できた、Cあまり達成できなかった、D達成できなかった】

平成30年度の取組目標及び方策

教育活動

具体的取組目標	具体的取組方策	取組スケジュール
「新学習指導要領」や「高大接続改革」施行に向けての取組	「新学習指導要領」施行に向けての取組は、平成30年度の「周知徹底」期間を通して教務係会で教育課程表の策定を進める。「高大接続改革」に向けての取組は、「学力の3要素」を踏まえた教育活動を通し、多面的・総合的に評価する大学入学者選抜に備える。その一端として、英語の4技能検定と「eポートフォリオ」の導入を進める。	通年
生徒による授業評価結果に基づく授業改善	相互授業参観を通して、授業力とクラスの教育環境の向上を図りながら、さらに、教育力を高めていく。特に授業進度と授業始業については継続事項。	通年
基礎学力の向上	基礎学力到達度テストに向けて、授業力を高めるとともに家庭学習の習慣化を図る。また、定期試験・模擬試験等のデータに基づいた対応を更に充実させ、各部署との連携により学力向上を目指す。	通年
I C T教育の導入準備	デジタル技術を活用し、「高大接続改革」に関わる「eポートフォリオ」の作成や情報活用能力と効率的な学習を行うためのI C T教育導入に向けて準備を行う。	通年

学校生活への配慮

具体的取組目標	具体的取組方策	取組スケジュール
いじめ防止のための取組	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒との二者面談等の実施 ・保健室などの連携を図り、早期発見・早期対応に努め、組織（チーム）として問題解決に当たっていく。 ・いじめ発見調査アンケートの実施と適切な対応 ・生徒会が中心となった、いじめ防止スローガンやポスターの作成と掲示 ・各種研修会への教職員の積極的参加 ・ネット被害防止スクールガード事業を通じたネットパトロールの実施と対応 	通年（特に年度の早い時期から） 通年 6月・11月 1学期～ 通年 通年
基本的な生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・新入生に対するオリエンテーション期間での全体指導とクラスごとの統一した指導の実施 ・担任をはじめ、教員全体による日頃からの継続的な指導と対応の徹底 ・定期的な全体指導の実施 （学年集会、生活指導講話、頭髪・服装検査などの実施） ・担任会・学年会との連携の強化 	通年 通年 通年 通年

交通安全指導 問題行動の防止	<ul style="list-style-type: none"> 交通安全教室（1学年）の開催 各クラスや学年集会などでの指導を通して事故防止や交通ルールの遵守などの意識づけの向上を図る。 登下校時の通学路巡回指導の実施 トラブルや問題行動防止のための継続した指導や注意喚起 生活指導講話の開催 	4月 通年 通年 通年 年4回
-------------------	--	-------------------------------------

課外活動

具体的取組目標	具体的取組方策	取組スケジュール
ボランティア活動や交流活動への参加	<ul style="list-style-type: none"> 外部のボランティア活動や交流活動への参加を促す。 校内でのボランティア活動を立案し、参加を呼びかける。 	通年
学校行事の充実	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力到達度テストや学習活動と折り合いをつけながら、現行の学校行事の一層の改善を図る。 各大会の応援にも力を入れる。 	通年
部活動への加入率や継続率の向上	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き新入生オリエンテーションでの部活動紹介に力を入れる。 計画的で魅力ある活動になるよう努める。 	通年
部活動の管理体制の適切化	顧問がより指導に専念できる環境を作る（事務処理の簡素化、顧問配置の工夫、部活動数の適正化）。	通年
部活動や学校行事の活性化	教員がより指導に専念できる環境を作る（仕事の簡素化による指導時間の確保、お互いによる雰囲気作りや手法の伝授）。	通年
家庭や地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> 月毎の活動予定表や遠征の案内等を家庭に配布し、了解を得る。 ラグビー部の小学生へのタグラグビー指導のような地域へ関わる機会を模索し積極的に参加する。 	通年

進路指導

具体的取組目標	具体的取組方策	取組スケジュール
日本大学への進学者数増加に向けた取組	①夏期休暇中の全員参加の講習（1～2年、ただし3年は進学希望者全員） ②年末年始休暇中の全員参加の講習（1・2年） ③春期休暇中の全員参加の講習（2・3年） ④医学部附属看護専門学校説明会（2・3年の生徒対象：看護学校教員が説明） ⑤理工学部説明会（2・3年の生徒対象：理工学部教員が説明） ⑥芸術学部説明会（3年の生徒対象：芸術学部教員が説明）	通年

	<p>⑦国際関係学部説明会(3年の担任・副担任対象:国際関係学部教員が説明)</p> <p>⑧生物資源科学部説明会(3年の担任・副担任対象:生物資源科学部教員が説明)</p> <p>⑨工学部オープンキャンパス無料バスツアー(2・3年の生徒・保護者対象)引率</p> <p>⑩日本大学各学部のオープンキャンパスへの参加を指導(全学年)</p> <p>⑪1年次進路説明会(保護者対象)にて日本大学について説明(本校教員が説明)</p> <p>⑫2年次進路説明会(生徒・保護者対象)にて日本大学向けの分科会を開催(本校教員が説明)</p> <p>⑬3年次日本大学付属推薦説明会(生徒対象:本校教員が説明)</p> <p>⑭3年次日本大学付属推薦説明会(保護者対象:本校教員が説明)</p> <p>⑮生産工学部高大連携教育(3年)</p> <p>上記の学部教員による説明会について,対象者を広げていく。また,本校教員による説明を行ってきた学部について,学部から教員をお招きし直接説明していただくことを検討していく。</p>	
<p>きめこまかい進路指導の実践</p>	<p>付属推薦入試の最新情報を速やかに生徒や保護者に伝え,日本大学進学希望者の進路目標達成を援助する。進路指導部と担任が連携を密にして生徒の実態に即したきめ細かい進路指導を行う。</p> <p>スタディサポート(ベネッセ)により,生徒の現状分析から面談する優先順位が分かるので,それをもとに面談の計画を立てる。教員向けのスタディサポート分析活用会を実施し,家庭学習の充実に向けた指導のポイントなどを担任が研修を積み,実践していく。</p> <p>1年次に職業レポートを作成させるなど,キャリア教育を充実させる。2年生の就職希望者の中で一般企業を考えている生徒に対して,インターンシップに参加させ,職業観を深めさせる。</p>	<p>通年</p>

保健衛生

<p>具体的取組目標</p>	<p>具体的取組方策</p>	<p>取組スケジュール</p>
<p>生徒の様々な「不適応状態」や「困り感」の早期把握と,それに対する早期対処のシステム化</p>	<p>心身両面から生徒の「困り感」を適切かつ客観的に把握し,それぞれの状況に応じて学年や他部署と連携しながら情報交換・共有し,指導・支援を行い,適宜対応を見直す「PDCAサイクル」を繰り返していく。</p>	<p>通年</p>

校内環境整備に関する体制の再構築	清掃の分担や時間の確保など，現在の課題を克服するための案を考える。	通年
------------------	-----------------------------------	----

図書

具体的取組目標	具体的取組方策	取組スケジュール
広報活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図書館前の階段下の掲示板の工夫 ・ 新入生オリエンテーションの工夫 ・ 6号館の掲示の充実 	通年 1学期
知的興味へ誘う環境作り	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小論文指導関連書籍の充実 ・ 一定期間を決め（読書週間等），日替わり特集本コーナー（「本日のおすすめ本」）の設置 	通年 10月～11月／ほか

広報

具体的取組目標	具体的取組方策	取組スケジュール
生徒募集に当たり，推薦・専願の受験者を増やす	中学校訪問や学校説明会等で推薦及び専願での入りやすさを説明する。	通年
ホームページを利用し，本校の魅力をアピールする	使いやすくなったホームページで更新を迅速に行い，常に新鮮な情報を伝える。	通年

管理運営

具体的取組目標	具体的取組方策	取組スケジュール
経常費補助金収入の改善及び人件費の適正化	補助金収入の改善は，1学級の生徒数を40人以下とすることで，経常費補助金の減額要因を最小限に止める。また，人件費の適正化を図るため，生徒数に対する適正なクラス数及び持ちコマ数を見直した適正な教員数を配置する。	通年
経常費補助金（特色教育推進事業）の収入確保並びに特色ある教育の充実	「教学に関する全学的な基本方針」を有効に機能させながら，本校独自の事業計画を策定し新規に特色ある教育を実施することにより補助金収入の増収を図る。	通年

中長期的目標及び方策

教育活動

具体的取組目標	具体的取組方策	取組スケジュール
基礎学力の向上	基礎学力到達度テストに向けて，授業力を高めるとともに，家庭学習の習慣化を図る。また，定期試験・模擬試験等のデータに基づいた対応を更に充実させ，各部署との連携により学力向上を目指す。	普段の教育活動において継続的に行う。
教員の授業力向上	相互授業参観を通して，授業力とクラスの教育環境の向上を図りながら，教育力を高め，確かな知識・学力の定着を目指す。また，外部の研修会に積極的に参加し，教員相互研修の一助とする。	通年

管理運営

具体的取組目標	具体的取組方策	取組スケジュール
財政基盤の確立	ゼロベース予算，冗費の節減，教職員の学校経営に対する個々の意識改革の徹底により，経費節減等支出削減対策につなぎ，財政状況が改善するよう継続して取り組む。	財政状況が改善するよう継続して取り組む。